スポーツとアリーナの力で、新たな街づくりを

Bリーグが進める地域創生の最前線

Bリーグは2026年に開幕から10周年の節目を迎え、「強化」「経営」「社会性」の3つの軸に沿った大変革を行う。そのカギとなるのが全国で建設が進む“夢のアリーナ”だ。富山市総合体育館が「YKK AP ARENA」へと改修される富山市で25年3月、「スポーツとアリーナがもたらす新たな街づくり」をテーマに講演会を開催した。

（主催：ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ、共催：インフロニア・ホールディングス、富山グラウジーズ）

スポーツの力で地域に貢献

大竹　なぜBリーグが地域創生に取り組むのか。

島田　千葉ジェッツの社長時代に、千葉県船橋市がBリーグによって変貌を遂げていく姿を目の当たりにした。また、日本で地域創生が掲げられて久しいものの、明確に結果が出たものは見当たらず、政府も打ち手を持ち合わせていないとも感じていた。そこで、スポーツの力が地域創生に寄与できる余地があるのでは、という仮説を立てた。今では地域創生につながることを強く確信している。

高堂　試合が多くの観客でにぎわうことで、パートナー、ファン、地域とのエンゲージメントの好循環が生まれると感じている。富山県や一般社団法人トヤマチミライとも包括連携協定を締結。富山駅周辺を中心としたエリアのにぎわいを創出し、富山市全体を盛り上げていくことにも力を入れている。富山グラウジーズの試合の日には駅から体育館までグラウジーズのぼり旗が立ち、マルシェも開催している。

大竹　「YKK AP ARENA」が果たす役割は。

藤井　アリーナは富山グラウジーズの本拠地になると同時に、富山市総合体育館時代よりも優れた市民のスポーツの場として生まれ変わる。また、防災拠点としての機能も備える。「Bプレミア」参入要件となるVIPルームは、女性や赤ちゃんを抱えたお母さんの避難生活に活用でき、水があり、空調も効き、日常の生活に近い快適な避難所として使用できる「YKK AP ARENA」に大きく期待している。今回の改修では「Rコンセッション方式」という一歩進んだ民間主導型の事業方式を採用した。民間の知恵・エネルギー・パワー・情熱・つながりが「YKK AP ARENA」には詰まっている。

岐部　当社グループの前田建設では、新設のアリーナにおいて日本初の「BT（Build Transfer）＋コンセッション方式」となる愛知県の新体育館整備・運営等事業も手掛ける。25年3月末に竣工し、名古屋ダイヤモンドドルフィンズのホームアリーナ「IGアリーナ」として引き渡されたのち、前田建設とNTTドコモも出資する運営会社が30年間の運営をする。また「新国立競技場」もNTTドコモとともにコンセッション方式として30年間の契約で運営していく。

富山グラウジーズ戦で盛り上がる街

富山グラウジーズ戦がある日には、マルシェや3×3（スリー・エックス・スリー）開催など、数多くの催しで富山駅から体育館周辺がにぎわう

富山市長
藤井 裕久氏

地元自治体

富山グラウジーズとともに地方創生を

富山市ではこの20年、人口減少するも持続可能な街づくり「コンパクトシティ政策」に取り組む。

市民や民間企業が主役に

大竹　Bリーグ発展やアリーナ改修と街づくりの関連性とは。

石崎　地元企業として2011年から富山グラウジーズをスポンサードしている。本日の試合も5000人以上のファンが来場したが、富山でこれほど集客力があるコンテンツは他にない。若い人たちが夢を持って、富山を今以上に好きになってもらうために、富山グラウジーズが担う役割は大きいと思う。

藤井　富山グラウジーズから感動をもらうことで、市民が本当に元気になる。また、自身がスポーツに取り組むきっかけにもなり健康が増進され、結果的に医療費や社会保障費の削減にもつながる。

島田　Bリーグが勝ったら昇格、負けたら降格という競争をやめるのは「地域創生リーグ」になるため。「Bプレミア」に参入するには平均入場者数4000人、売上高12億円の達成が必要で、一度達成してもその状態を継続できなければ降格となる。つまり、地元の方々に評価され続け、試合に足を運んでもらい続けるための努力をしなければならない。今各クラブが成長をしているのは、成長しなければならないという合意のもとに参画しているから。

高堂　21年のプレーオフに、完成したばかりの沖縄アリーナで試合をした。このアリーナが当たり前になる、これを富山の皆さんにも見せてあげたいというのが、Bプレミアに参入するところまで来られた原動力だ。

石崎　昨日、今日と富山市総合体育館周辺を歩いてみたが、あらためて素晴らしいロケーションだなと感じた。駅からも近いし、富山県美術館や富岩運河環水公園がある。試合やイベントももちろん大事だが、日常的に人が集まり、愛される建物になれるよう考えていかなければいけない。インフロニア・ホールディングスらとともに、全国からたくさんの人が訪れる富山らしいアリーナの実現に取り組んでいきたい。

岐部　英国のマンチェスターという街にはマンチェスター・ユナイテッドFCとマンチェスター・シティFCという世界的にトップクラスの集客力、強さを持つプロサッカークラブがある。マンチェスターの人口は約55万人、富山市は約40万人。富山とさほど規模の違わない都市で、世界的な2つのクラブが、世界中から多くの人を集めている。特に、マンチェスター・シティのホームであるエティハド・スタジアムの所有者は自治体だ。クラブの繁栄は、街に収益をもたらし、その一部が子どもたちの教育施設や運動施設、市会議員の活動費として生かされている。こうしたことが富山にも可能だということを期待してほしい。私たちも一緒になって富山の価値を引き上げていきたい。

藤井　本日はいろいろなヒントと確信をもらった。アリーナには大きな付加価値がある。市民が主役で、そして民間企業が主役。そんな富山市を象徴するこれからの施設、富山市総合体育館改め「YKK AP ARENA」。この夢のある取り組みを皆で創り上げていきたい。

神奈川大学
人間科学部教授
大竹 弘和氏

ファシリテーター

民間にとってのビジネスチャンス

公共政策や官民の連携が専門、スポーツ庁「多世代が集い交流するスタジアム・アリーナ」の選考委員を担当。

インフロニア・ホールディングス
取締役 代表執行役社長 兼 CEO
岐部 一誠氏

体育館改修事業者

改修工事、日本初の枠組みで

唯一無二のビジネスモデル、インフラの設計・施工から維持管理・運営まで手掛ける「請負×脱請負」を推進。

富山グラウジーズ
代表取締役社長
高堂 孝一氏

富山グラウジーズ運営

富山で広がる富山グラウジーズ愛

創設より、多くの方の夢や目標を積み上げてきた19年。一年一年を市民の方とともに築き上げていく。

Bリーグ
チェアマン
島田 慎二氏

Bリーグ代表

ワクワクする地域社会の実現に貢献

Bリーグは長期ビジョン「感動立国」をもとに、ワクワクする地域社会の実現「地域創生リーグ」へ。

アイザック
代表取締役社長
石崎 大善氏

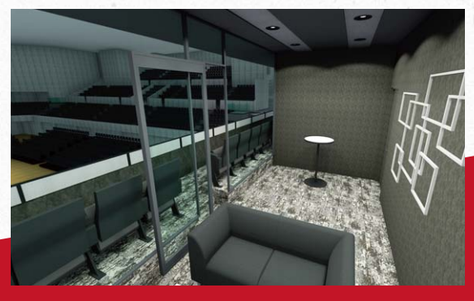
富山グラウジーズ
オフィシャルウェア
パートナー企業

環境事業を軸に、地域へ貢献

産業廃棄物の中間処理やホテル経営などを手掛け、産業廃棄物の最終処理場やゴルフ場も県内に保有。

富山市総合体育館は「YKK AP ARENA」へ

Bプレミアに参入するには収容人数5000人以上のアリーナにスイートルームを設置することなどが求められる。富山市総合体育館は基準を満たすためリニューアルを進める



インフロニアの取り組み

スポーツビジネスの枠を超えオープンイノベーションで地域活性化

Bリーグは2024年7月、インフラとインフラサービスが抱える社会課題の解決に向け、日本初の総合インフラサービス企業インフロニア・ホールディングスを「B.LEAGUE イノベーションパートナー」に迎え挑戦を開始した。初年度の24年10月～12月には、親子で楽しめる参加型イベント「INFRONEER B.Hi TOUCH」をB1、B2、全38クラブの試合会場で実施。その他、子どもたちの未来を応援するBリーグU15・U18競技会の冠パートナーにも就任している。

インフロニアが取り組む「バスケとインフラでハイタッチ！」をテーマとした参加型イベント

詳しい情報はこちら

B.LEAGUE

シンポジウムの詳細は日経電子版広告特集でご覧いただけます

企画・制作＝日本経済新聞社Nブランドスタジオ

広　告